

アウルラリアの名付け親である Cavallar 先生より、名前の由来についてご寄稿頂きました。

アウルラリアの意味について

Aulularia (アウルラリア) はラテン語で、「黄金の鍋」又は「小判に満ちた鍋」を意味する。英語に訳すと、“The Pot Full of Gold”である。この名称は古代ローマの劇作家、ティトゥス・マッチウス・プラウトゥス (Titus Maccius Plautus, c. 254-184 BC) の喜劇の題目に由来する。

劇『アウルラリア』に登場する主人公エウクリオ (Euclio) は、物語の中で、生家の守護神によって託された「黄金の鍋」を様々な危険から守ろうとしていた。しかし、欲に心を奪われ、自身の娘を資産家と結婚させようとしたことをきっかけに、大切な「黄金の鍋」を失ってしまう。物語の後半部分は残されておらず、後世の作家による記述からしか全体を辿ることができない。それらによると、劇の終わりでは、エウクリオは、一度は失った「黄金の鍋」を再び手に入れ、娘とその恋人との結婚祝いとして贈ったとされている。

なぜ、“アウルラリア”が南山大学瀬戸キャンパスの学生交流センターの名称に選ばれたのであろうか。日本人にとって、特に区別しにくい「lu」、「la」、「ri」といった音節が含まれているからである。...これは冗談として、この劇『アウルラリア』はわれわれに大切なことを教えてくれるように思われた。

一つ目に、エウクリオは最後には娘の幸せを願い、大切にしていた黄金の鍋を娘に贈ったように、個人の才能や資質は、自分のためだけでなく、周りの人々や身近な人のために生かすべきであるということである。二つ目に、喜劇作家であったプラウトゥスは、風刺をもって、当時の社会の荒廃した風潮を批判したと思われる。自分の欲を満たすために一生懸命になるエウクリオの姿を描くことを通して、富を蓄え、贅沢に明け暮れたローマ社会の一部の人々に、「自分のことばかりを考えていると、大切なことに気づかない」という戒めを思い出させようとしたのではなかろうか。最後に、喜劇『アウルラリア』の後半の部分が失われてしまっていることから、「アウルラリア」という名に「未完成な状態にあるものを人々の意思と協力によって完成させる」という意味をこめた。この物語のように未完成なこの場所を、多くの人の力によって成長させたいと考えたのである。

南山大学瀬戸キャンパスにおける「アウルラリア」に様々な学生や教職員が集うことによって、この場が南山大学にかかわる人にとっての「黄金の鍋」となってほしい。それぞれがこの場所に自身の小判、つまり才能や資質を持ち寄れば、集いの場は真の「黄金の鍋」となりうる。このような願いをこめて、アウルラリアと名づけた。